関大
発行所
関西大学校友会
〒564
吹田市山手町3丁目3番35号
発行人 小屋敷民蔵
電話 06 (388) 1121代表
振替口座大阪55594番

52年度 校友会事業計画案決まる

新聞発行に協力金
校友総会は10月16日に

昭和五十二年度の校友会事業計画と収支予算については、去る三月五日大阪証券会館で開いた常議員会で、執行部原案がとおい、三月二十六日の定例代議員会で承認を得たのち実施の運びとなる。

昨年一月の大幅な郵便料金の値上げは、本会の重要な事業である機関紙「関大」の発行に深刻な影響を及ぼし、今後毎年増大する郵送経費を維持し発行を継続させるために、過去において三千円～五千円の終身会費払込者に、新聞発行協力金を要請することと、校友会費の改訂によって財政基盤の確立を期する方針である。

本年度は、本会財政の建直しのために行う諸施策に重点をおき、本会運営の根幹である財政基盤の確立につとめ、なお広報、組織、その他の事業活動にも一層の努力を重ね万全を期したい。これらを背景として、本年度は主要な事業を次のとおり策定した。

1 校友総会の開催

校友総会は、校友会の行う年一回の行事で校友相互が親睦を深めるための催しである。最近では、校友の芸能人やプロ野球選手などの参加もあって、年々盛大となり親睦の実を挙げている。

本年は十月十六日の日曜日に、大阪網島の〝太閤園〟を会場と意義ある催しとなるよう準備を進めたい。

2 名簿事務の推進

本年四月には、四年目ごとに発行する全卒業生収載の名簿である「51年版校友名簿」（B5版1562頁50音順配列）を発行する。これを機会に本名簿の一層の整備をはかり、連絡不能校友の解消などにつとめたい。

なお、昭和五十二年三月卒業生名簿は、校友名簿の別冊補完として七月上旬に発行の予定である。

3 新聞〝関大〟の発行

本年は二五三号から二六三号の十一号を発行する計画である。新聞〝関大〟の発行は、本会の重要な事業であり、母校と校友を結ぶ唯一の連絡機関として大きな役割を果している。

しかし、最近郵送料の大幅な値上げに伴い、新聞郵送料は年間千三百万円を要し、財政窮迫の折大きな負担となり、今後毎年増大する郵送経費を維持していくには、この機会にそのための財源を確保することが急務である。新聞発行の重要性に鑑み、校友各位のご協力をお願いしたい。

4 「関西大学創立90周年記念事業募金」への協力

母校では、創立90周年記念事業の一環として、学園の充実発展をはかることを目的に募金計画を発表、目標額五億円として、二カ年計画で募金活動展開している。

校友会では昨年来校友各位に呼びかけ、〝関大〟紙を通じて寄付者芳名を発表しているところであるが、本年九月末日（寄付者免税期間）までとするこの募金に、校友挙げての協力をお願いしたい。

5 組織の拡充強化

終身会費払込校友を拡大するため、昨年は全国代表者会議の要望もあって、全校友を地域別に分類し、会費払込の有無を調べた名簿を各学部長あてに郵送して、会費払込の勧誘を要請した。本年度も継続してこの運動を促進して成果を挙げたい。

また、とくに最近の女性校友の進出にこたえて婦人部の創設を呼びかけるほか、停滞支部の再建、代表者会議の開催などの計画を樹て組織の拡充強化をはかりたい。

6 会員の慶弔

会員の慶弔については、内規によって慶弔の意を表しているが、多数の校友のため漏れなきを期するためには、校友各位のご協力をお願いしたい。

7 学生援助

校友会は、将来校友となる学生に対し、学生の催す各種行事や文化、学研、体育などのクラブ活動に援助し、相互の信頼を深めることにつとめたい。

8 その他事業の推進

記念事業募金は、前掲のとおりであるが、大学関係者との懇談会その他従来から行っている見学会事業を推進したい。

昭和52年度収支予算書（案）

（自 昭和52年4月1日 至 昭和53年3月31日）

1．普通会計　単位千円

支出 費目	51年度予算	52年度予算
人件費	28,501	31,310
給与	18,485	20,330
期末手当	7,290	7,900
通勤手当	540	550
社会保険料	1,386	1,530
退職給与金	800	1,000
物件費	4,789	7,642
備品費	150	150
消耗品費	433	430
印刷費	1,380	1,380
通信費	1,183	1,300
会費	1,050	1,200
協力金	0	2,590
受入会費	135	135
交際費	77	77
雑費	381	380
会議費	1,098	1,100
代議員会費	300	300
常議員会費	232	240
部長会費	126	130
部特別委員会費	280	280
事業費	160	150
総会費	22,290	23,150
事業印刷費	450	450
新聞発行費	600	600
編集費	4,298	4,400
支援金	12,358	13,050
代議員会費	744	750
学生援助費	700	700
学生援助費	850	850
慶弔費	250	300
予備費	1,800	1,800
渉外費	100	100
割戻金	150	150
予備金	300	300
合計	3,750	850
	530	3,287
	61,258	67,639

収入 費目	51年度予算	52年度予算
前期繰越金	5,059	0
会費収入	34,250	27,250
会費	1,250	1,250
終身受入金	33,000	26,000
会費外収入	21,949	40,389
広告料	4,800	5,000
校友名簿作成費	11,434	13,849
友業務受託金	5,000	5,500
雑収入	375	700
新聞発行協力金	340	340
聞発行負担金	0	15,000
合計	61,258	67,639

卒業生諸君に贈る

中 学長

ゼロからの出発を

学長 中 義勝

「年年歳歳人相移り、年年歳歳花相似たり。」古人は、これを、人生のドラマに譬えたのであろうか。それなら、四星霜にわたるカレッジ・ライフも、登場人物は年ごとに変わるが、演ぜられるドラマはあまり変わりばえがしないということになる。語句の意味するところは、大局観としてはわかるが、それにしてもいささか「達観」にすぎていただけない。達観すれば、人間万事永劫の輪廻（りんね）であり、時代の英傑もいたずらに児戯を演ずるのみだということになろう。それでは若者も切なく、やりきれなかろう。

若者はあまり達観せぬがよい。無限の可能性を「盲信」することこそが若者の特権である。地に足がついていなくともいいではないか。両手に羽根をくくりつけ、丘の上から飛び上ようといったぼせあがったいとなみは、世故にたけた大人たちの思いのほかのたわごとであろう。しかし、そうした大人たちの知恵からは、ついに飛行機という発想は生まれてこない。年々歳々「花相似たり」ではやりきれない。

この点、本学出身者には、やや粗野だが滅法、ファイト旺盛な者が多い。世人はこれを「質実剛健」のスクール・カラーだという。小じんまりとそつなくまとまった瀟洒な紳士よりも、荒削りだが一途なところのある野武士的人士の方が、なにか楽方もないことをしでかしそうでむしろたのもしい。

それにしても、年ごとに「人相移る」ことだけはたしかである。舞台おもてに登場する個々人が、つぎつぎに舞台の袖にかくれてしまうだけではない。彼等がまとう衣裳のきらびやかさも、今ではすでに昔日の面影はない。今日、ちまたには「学士」は掃いて棄てるほど充満しているといっても敢えて誇張ではない。それでは、諸君は、なにをたよりにこの競争社会に伍していこうとするのか。

私が本学を卒業したのは、ちょうど今から三十一年前、昭和二十一年九月のことであった。当時、都市の風景は一面の焼野が原に瓦礫を残すのみであったが、それはさながらにわが国 産業の崩壊過程でのものであった。就職口など絶無であった。わが国の産業も、我われもゼロから出発すればならなかった。徒手空拳、学士の肩書などたよりにならず、一億総ミミ屋の群（むれ）に伍していかねばならなかったのである。事情は違うが、学士の肩書が通用しないという点では今も当時とよく似ている。それなら、諸君もゼロから始めるべきではないか。そのゼロが一か二にでも通用するなら、案外の儲けものだくらいに思えばよいであろう。しかし、修羅場での闘いは、結局 各人の総合能力によって帰趨がきまるものようである。そのさい、諸君が、母校関大の歴で時世を慨歎し、人間を論じ、学説を批判し、はてはとりとめなく駄弁ったとすら、期せずして諸君の総合能力をつちかっていることはうけあいである。しかし、あくまでゼロから始めて、一つ一つ事を明日にもちこすな。そして、一つ一つの仕事にどこまでも誠実・真剣に対決していく導ずがらに、きっと諸君は肚の底から職業人としての自負を獲ちとることであろう。

最後に一句をひこう。「一人いるときは二人と思え、二人いるときは三人と思え、その一人は親鸞なり」。これは、孤立無援、ゼロから始めた弟子への痛烈なる激励の言葉である。私は、これをなぞって、その一人こそ母校関大なりといたい。苦難に立向かわれる諸君が、その渦中にあってしばし母校を追想する心の余裕をもち、さわやかにこれを乗りきれるよう祈るや切なるものがある。

校友会費を改訂
終身、予納会費など
終身払込者に協力金を

校友名簿の発行と、機関紙「関大」の発行は、校友会の二大事業であるが、昨年の郵便料金の大幅な値上げにより、新聞の発送費が年間千三百万円を要し、校友会財政を極度に圧迫している。年々増大するこの経費を支弁するために、執行部では財源確保のため、校友会費の改訂と、既往の終身会費払込校友に対し、新聞発行協力金を要請することになった。

◇校友会費の改訂には、会則の改正を要するので、この改正案を、三月二十六日の定例代議員会にはかり、決定すれば昭和五十三年度から実施されることになる。

〈改訂案〉

終身会費一万円を三万円に
年会費千円を二千円に

◇新聞発行協力金の要請は、昭和32年～38年終身会費三千円払込者、並に昭和39年～47年終身会費五千円払込者に対し、一律に金五千円也の協力金を要請する。なお、昭和四十八年以降の終身会費金一万円の払込者にはこれを適用しない。

◇予納会費の改訂について

代議員会で、会費改訂が決定した場合、現在実施している入学時の校友会費終身予納は、これまでの七千円を一万五千円とし昭和五十三年度入学者から適用することになる。

また、予納会費未払者から、卒業時に徴収する予納会費後払については、九千円を一万八千円とする。ただし、昭和五十三年三月三十一日までに納入するものについては、なお従前の規定によるものとする。

51年度卒業式
3月25日に挙行

昭和五十一年度学部卒業式並びに大学院学位（修士）記授与式は四年ごとに発行の校友名簿51年版は、予定より一か月ほどおくれ、いよいよ四月中旬に刊行の運びとなり、いま最後の印刷、製本の工程に入っている。

従来の名簿は、関西法律学校、専門部、学部、予科、工専、短大、関甲、二商など、学校別であったため、氏名を検索するのに、直ちに判らず、索引に頼らなければならなかったので、使用しにくいとの声もあった。このたびの名簿は、氏名の検索が容易であるように全校友を五十音順に改めるとともに年々新卒を加え、かつ異動事項の訂正など名簿作成の将来の展望に立って、コンピューター写植に改めたのは本会の名簿としては画期的なことであろう。

この名簿はコンピューター写植によって感応テープにファイルしているが、名簿の体裁は、従来の名簿の総索引に住所、職業を付して「本欄」とし、これまでの学校別・年度、学部学科別名簿の本欄の住所・職業を省いて「学校別卒業生氏名総覧」として巻末に収載したものである。

予約されて、名簿代金お払込み方には、小包便で四月中にお送りしますから、しばらくお待ち下さい。

校友名簿
51年版
四月中旬に刊行

B5判 一五六二頁・頒価 七、〇〇〇円（〒共）

申込先 吹田市山手町三丁三五 関西大学校友会事務局

振替 大阪五五九四

関大経済人クラブ例会で堀清彦氏の講演を聞く

企業経営と株式相場
堀清彦氏の講演を聞く

関大経済人クラブ例会

関西大学経済人クラブ（会長西村治三郎氏）第五十六回例会は、三月九日午後五時半からホテルプラザで開催され、同クラブ会員の校友堀清彦氏が、〝企業経営と株式相場〟をテーマとして講演した。

同氏は、大和証券副社長、大和土地建物社長、大阪証券取引所理事などを経て、現在は昭和三十四年資本金三〇〇万円のささやかな工場から、資本金十八億二六〇〇万円、無借金経営、上場会社中もっとも株価の高い企業として話題を投げている「京都セラミック」の取締役相談役として活躍されている。同氏は講演の中で次のように述べられた。

「株式相場は、政治社会経済情勢が反映して生まれるが、株価とちがった動きを現わすもの……非科学的とみえるがカンと経験から瞬間的判断と決断と実行が生命である。このことは企業経営にも通ずると思う。

関西の経営者は、東京ではサラリーマンあがりが多いのに対し、創業者が多く、五分と五分で決断する。サラリーマン重役はリスクを過大におそれる。企業経営にはトップと女房役のコンビが必要で、私は社長とコンビを組み経営を推進している。

証券界から当時強い反論抵抗があったがいち早く株式時価発行を提唱した。時価発行には経営者に企業収益をあげ株価維持の責任と義務がある。京都セラミックは、その時価発行の妙味を実践しつつ今日に至り、更に、ADR（米国預託証券）も活用した。

独創的なファインセラミック製造技術のもとに、結晶工業の粋といえる再結晶エメラルド〝クレサンベールエメラルド〟の開発に成功した。科学する心をもって果てしない未来に挑戦していく」

プレゼントのお考えはきまりましたか
サイフ・ハンドバッグ・カバン専門卸
ビジネスバッグ・旅行カバン
GIFT 贈答好適
ご一報者にカタログ急送
K.K廣島屋本店
取締役社長 蔵田廣造
（昭和25年 経済学部卒）
〒541 大阪市東区博労町1－26
TEL 06－261－2431

行事と集い

●昭和51年度学部卒業式　3月25日
（金）千里山学舎体育館
午前10時　経・商・工
午後1時　法・文・社

●第27回定例代議員会　3月26日
（土）午後1時　関大会館

●吹田支部総会　4月9日（土）
午後2時　アサヒビール吹田工場

●昭和52年度学部入学式　4月8日
（金）千里山学舎体育館
午前10時　文・経・社
午後1時　法・商・工
経済学部（一・二部）午前十時
商学部（一・二部）〃
工学部〃
法学部（一・二部）午後一時
文学部（一・二部）〃
社会学部（一・二部）〃

▽大学院学位（修士）記授与式
三月二十六日（土）午前十時
大学院学舎
法学研究科　八名、文学研究科三四名、経済学研究科　四名、商学研究科　四名、社会学研究科　一三名、工学研究科　一〇九名　以上一七二名

学位記授与
三博士が誕生

本学大学院ではかねて提出中の学位論文審査の結果、去る三月八日付で学位記（論文博士）を授与されることになった。学位並に論文題目は次のとおりである。

○工学博士　田代 辰夫
論題―メチロール化2―置換―4、6―ジアミノ―S―トリアジンの反応と繊布への応用

○工学博士　水野 護吾
論題―陽イオンおよび陰イオンの迅速微量定量法に関する研究

○工学博士　北鳥 弘一
（昭44院修工・工学部助手）
論題―ベルト研削の加工特性に関する基礎的研究

なお、学位記授与は来る三月二十六日に行われる。

訃の雲

京都の出版社から一冊の書籍小包がとどく。思いあたるふしがないがさっそくひらけば、中学長の著書である。こんないい方をすれば学長にたいへん礼を失するが、学長がこんな洒落れたエッセイを書けるとは心ならずも驚いたのである。奥付はこの三月二十一日発行とあるから、新校友のはなむけに出版したのかも知れない。▼「欣求の志」とする一五〇頁たらずの小冊であるが、すべて珠玉のように輝いており、どの目次を読んでも興味がつきない。「欣求の志切なるを要す」は学長の座右の銘である。出典は道元の正法眼蔵随聞記の一節で、若き校友のため少しその意味をのべれば、道をあこがれ求めてやまぬ志、これが切実であることが肝要だということ（本書三一ページ）▼放屁論、放屁論後編とあるエッセイもまた愉快である。

平賀源内の作品を引用しながら「他人から月給を貰っていると、知らず識らずのうちに自分の姿勢が体制順応型となり、物の見方や感じ方まで体制に埋没してしまいがちになるものですが、そこへいくと学生は誰のために忠義をつくさねばならぬということはなく……立場なき立場、これが学生の立場です。いわば天下の浪人です」と、昨日の学生、今日からの社会人となった新校友に語りかけているようだ▼エッセイは漢の周公から親鸞上人、フリードリッヒ、フォイエルバッハ、はては九代目団十郎と時代の英雄が登場し、著者の見識のひろさに頭をたれる▼しかし新校友にかならずや思いあたる一文を紹介したい。「関大生かたぎ」のところで「ゼミ教室にあっては窈窕たる淑女のごとく、ゼミコンパにあっては脱兎のごとし世にはまことに不思議にも愉快な学生がいるものである。ゼミの時間には終始沈黙の金をもって飽くことなく、拷問して口を開かせればいんぎんに判りません……と。ところが、コンパともなればまさに彼の独壇場…演芸部長まで置いててて、まことにたのもしいかぎりである。……関大にはときどきこんな学生がいる」新校友のみなさん、卒業おめでとう。

校友通信

オス！「ごまだんご」さん

この欄は校友の皆さんの通信欄として活用していただくためにもうけたものです。手紙、電話等で編集部までご連絡ください。

なつかしい新聞「関大」

南 正人（昭17大経）

新聞「関大」毎号なつかしく拝見しています。私は昭和二十八年に、日生町役場助役を辞めて、親父が印刷所を経営していた大阪へ出ましたが、たまたま母校の創立七十周年で、新聞が創刊されていました。私もすきな道なので、編集の手伝いをした縁もあって、よけいになつかしさを覚えます。

その後、間もなく大阪を引き上げて日生に帰り、古巣の町役場の助役を長いことつとめていましたが、昭和四十五年に町長に就任、現在二期目のつとめです。長男律夫も母校の工学部を出て、栗本鉄工の水処理につとめています。三十歳、まだ独身なのでよろしく。

当地は、岡山県の東南端で、西播磨灘に大小十四の島々が点在している風景のあまりにこわされていない土地柄です。瀬戸内の珍味が多少賞味されるところです。目の前には海上二キロで小豆島の青い島影が見え、海上一時間でフェリーが運行されています。機会があればお寄り下さい。

（岡山県日生町町長）

歩いています

藤本 浩一（昭2専文）

私もおかげで健康に恵まれ、まだ山道を歩きまわっております。長い長い道程であった「木地山」の遍歴も、二十年目の昨年を以って一応大休止することにして、本年こそは本命の「日本神話」をテーマとする長篇叙事詩の完成に集中したいと念じております。

しかし巨石や山を御神体とする古代人の神々が、頻りに私の心を惹くようで、昨年来この道にとりつかれ、古典と地図をにらみながら、どちらに傾くべきか迷っています。一月十五日（四面参照）

大阪のライオン五人います

芦田 定男（昭18大政）

大阪で暮らしていると、いろんなところで同窓の方にお会いできて、さすが地元の大学だけのことはあると驚いたり、喜こんだりです。いろんな公的な審議会などの席でも「あなたも」とお互いに心丈夫に思うことが、ままあります。同窓ライオンはメイク・アップにでもおいで下さい。大歓迎です。

職域支部の運営に意欲

佐藤 稔 氏（昭18大法）

大阪中央郵便局長の佐藤稔氏は昨年十月に、母校関大の評議員に選任され、その任務遂行に精進しているが、一方、郵政関大会の会長でもあり、このところ、郵政関大会の動きが、いささか低調気味になっているので、これに「活」を入れ、往年の隆盛をとりもどすべく意欲をもっている。

会長たる佐藤氏は熱意を傾けて現在は弁護士の本井吉雄氏（65才）私と同期だった賀島商の巽義宣氏（56才）、陸士出の現役大尉で南方から復員。その後関大を卒業して印刷会社社長の谷口重義氏（59才）など、ライオン五名。例会には皆さんのお元気な顔が見られるので私も楽しみに出席しています。例会は毎月第2第4水曜日の12時15分から、大阪ロイヤル・ホテルで大マンがいて「花の十八年組」と太閤園で開いています。

水戸地検に小嶌氏着任

鈴木成男（昭24大経）（S・O生）

二、三日来めっきり暖かくなり水戸偕楽園の日だまりの梅もそろそろほころび始めたようです。

さて、本年二月一日付で関大の大先輩小嶌信勝氏が、水戸地方検察庁検事正に就任し着任されましたので、挨拶方々お祝いに伺った次第です。その折に茨城県支部の現況についてもお話しをしたところ、懐しく聴いておられました。暫く話をしていますと、何かしら大先輩にふさわしい誇り高い香りが身近に感じてくるようでした。水戸勤務は二三年でしょうが、いずれ転勤されるまでは我々のグループとして友好を深めていきたいと思っております。

当支部も本部からは相当離れておりますが、相互に心の輪を拡げ今後の発展を期したいと思います。

（校友会茨城県支部長）

最高のおくりもの カタノ紳士服
片野洋服店
大阪市東区北浜三丁目北浜通 電話大阪(231)〇五六五一七
大阪駅前店 第一生命ビル 専門大店 電話 大阪(341)〇七九二
上六近鉄百貨店紳士服サロン テーラーカタノ
カタノヨイ カタノコラヌ カタノクズレヌ カタノ洋服店

●サラリーマンの財産づくりに―
ダイワ 財形信託
●天引きで貯めやすい
●高利回りの信託
●積立金は1,000円から
●優とは別枠で 500万まで無税の特典
長い人生――頼りがいある銀行を持つべし。
大和銀行

ダイヤモンドホーローバス製造元
各種大型プレス・製缶事業
赤井物産株式会社

高級染料及び中間物製造販売元
神戸化学工業株式会社
大阪興業株式会社
新東生コンクリート工業株式会社
取締役社長 赤井常隆
本社 550大阪市西区北堀江上通二丁目十番地 電話大阪(五三八)代表三六二一～六番
支店営業所 東京・名古屋・福岡
工場 静岡・川西・神戸

営業科目
化学陶磁器部・機械器具部
工事部（耐酸工事・タイル工事・サッシ工事・造園工事）
公害防止機器並に装置
貸ビル・貸マンション
ヤノシゲ株式会社
取締役社長 矢野文雄
大阪市北区梅ケ枝町七一 ヤノシゲビル
電話 (364) 一〇五〇番（代表）
〇〇五一番（代表）

National
心強さをプラスした――インターホン
ドアホン子機（屋外）
2線配線
親機の〈警報スイッチ〉を押すと、子機から〈警報音〉を発しご近所へ急を知らせます。
親機（屋内）
お住まいの内と外の「通話」はもとより、万一に備えて「警報機能」をプラスした心強いニュータイプのインターホンです。
ナショナル玄関電話 〈警報チャイミー〉
VL-169 ¥19,800（親機1台・子機1台のセット）
松下通信
●お問い合わせは…ナショナル通信機器(株)
本社 大阪市都島区中野町3-8-14 〒534 電話(06)352-2171
神戸営業所 神戸市葺合区御幸通2-6 〒651 電話(078)231-6141

皇遠鏡から顕微鏡まで
光学館
心斎橋店2階
メガネ 大学堂
●京橋店 ●心斎橋店
●阪神百貨店 ●虹のまち店

北から・南から　各地支部だより

大阪府下市役所連合懇談会

31団体で発足へ

七ブロックで運営推進

関西大学の卒業生は、全国各府県の府県庁、市役所など地方行政の分野に多数活躍し、現に大阪府下に四市長を交友で占めていることは広く知られているところである。

大阪府下の自治体、大阪市役所をはじめ府下31の市役所、大阪府府庁幹部などを中心とした「第一回大阪府下市役所連合懇談会」が二月二十六日午後二時から五時まで、大阪長堀橋「アークホテル」に参加団体二〇団体四二名、本部役員を含め五十七名という予想をはるかに越える出席者を得て盛会裡に開かれた。

これは昨年二月、大阪マルビルを会場に開かれた職域懇談会に出席した府下市役所在職有志の強い要望によって実現の運びに至ったものであり、連合体結成の趣旨とするところは「地方自治体に職を同じくしているもの同士が、ともに職務上の問題点を討議し研究し合って、行政の向上に取組もう」というものである。

当日は初会でもあり組織部が中心となって進行し、北野副部長が司会、金本組織部長が経過説明、議長役を村上副会長が担当した。

懇談会では、先ず出席団体の校友の在職数、組織の有無、その活動内容など実態報告を受けた。その結果大阪府庁一一七〇、大阪市役所一八〇〇、東大阪市二一九、堺市二〇〇、豊中市二〇〇、吹田市一六五、枚方市一三〇など百名を越える大世帯が七団体もあり、組織上も確固たる職域会をもつものとして、府庁、大阪市、茨木市、柏原市、岸和田市、堺市、吹田市、高槻市、豊中市、寝屋川市、東大阪市、箕面市、守口市、八尾市の一四団体に及んでいる。

これら実態報告のあと、「今後の運営について」協議の結果、運営委員会を設置することになり、府下を七ブロックに分け、大阪府大阪市を含めつぎのとおり八名の運営委員を選出した。（敬称略）

▽三島地区（吹田、高槻、茨木、摂津）＝茨木市役所監査委事務局長・鹿野　積

▽豊能地区（豊中、池田、箕面）＝箕面市役所医療対策室長・高田　明

▽泉北地区（堺、泉大津、和泉、高石）＝堺市役所老人福祉課主幹・中村美夫

▽泉南地区（岸和田、貝塚、泉佐野、泉南）＝岸和田市市民部固定資産税課長・大植淳平

▽南河内地区（富田林、河内長野、羽曳野、藤井寺）＝富田林市役所職員係長・秦　純一

▽中河内地区（八尾、松原、柏原、東大阪）＝東大阪市役所福祉第一課長・佐伯文也

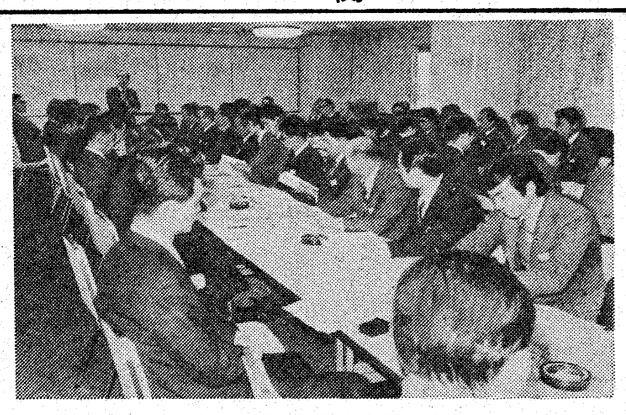
▽北河内地区（守口、枚方、寝屋川、大東、門真、四条畷、交野）＝寝屋川市役所秘書課長・土肥忠幸

▽大阪市役所＝経理局長・足立芳郎

▽大阪府庁＝総務部参事・篠原昭三

今後はこれらブロックごとの代表幹事が運営の中心となり、自主的運営のもとに共通のテーマを懇談するなど、ユニークな運合体として発足することになる。

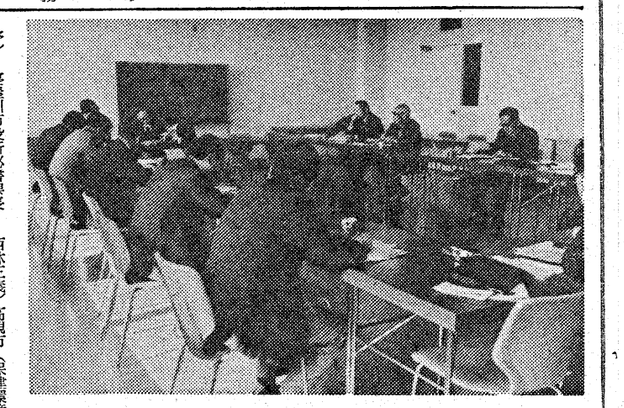
懇談会終了後は懇親会にうつり会の結成に足立大阪市経理局長の発声で祝杯をあげ交歓を尽し午後五時会員輪になって万歳を唱し、母校の万才を唱えて散会した。



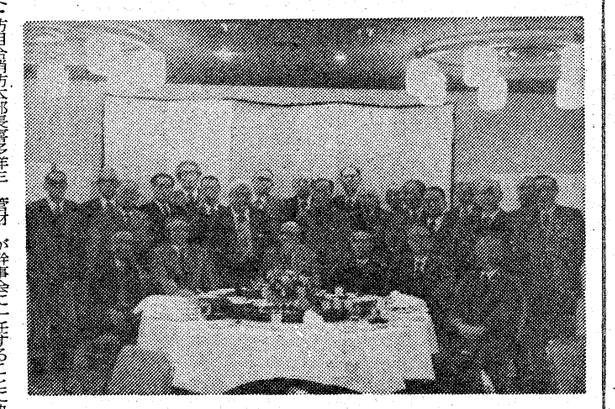
大阪府下市役所連合懇談会結成の初会合

▽出席者氏名

本阪府（総務部職員長石原久弘衛生部次長福田順一　総務部参事篠原昭三　同和対策室次長岸田勲議会事務局　調査課長代理　泉田康東成区長宝多包美　西成区総務課長石田弘）泉大津市（企画課長田中康夫）茨木市（監査委事務局長鹿野積　市長公室次長横山明）柏原市（会計課主事松井俊明　教委庶務課長補佐田中久雄　水道局業務課青山吾郎）門真市（市教委総務課長奥村宏）岸和田市（市民部固定資産税課長大植淳平）堺市（老人福祉課主幹中村美夫　収入役室係長鈴木良一）四条畷市（福祉課保護係長岩崎正　福祉課厚生係長中村勝等）吹田市（監査委事務局主幹田中正明）大東市（収税課長



総会開催の準備会を開いた吹田支部の幹部会



29年ぶりに集まった「桃源会」の面々

母校創立65周年記念総会

11月2日　関甲倶楽部が開催

母校関西甲種商業学校は、大正元年に創立されてから本年で六十五周年を迎える。関甲倶楽部（会長吉田八郎氏）では創立記念日の十一月二日に、盛大な記念総会を催すことを役員会で決定した。

総会の企画、会員名簿を五年ぶりに改訂版発行のため、常任役員のほか、年度幹事を委嘱して、各期ごとに名簿作成資料ならびに、総会企画に関する要望等を、四月十五日までにまとめることになった。

▽創立六十五周年記念総会

▽十一月二日（水）午後五時半

▽大阪北区中之島　関電会館

▽会費　五五〇〇円（名簿代共）

なお、各期の委員次のとおり。

一、奈須野一郎（1～10期）
5桝野伊兵衛　7寺井　五郎
9吉田　八郎　10今井　清
一、中尾　善宣（11～20期）
11吉沢喜三郎　12国分　吉広
16郷　栄作　17岡本　三郎
18湯川　桝三　19村田　保春
20門　光明
一、古市　実（21～25期）
21西谷時男　22西村末治
23森田　彰　25島田藤平
一、木村　昌三（26～30期）
26西岡　正　27森位弘治
28八木　実　29井上能男
30鼎　秀夫
一、長田喜久雄（31～35期）
31篠原昭三　32大鳴敬幸
33橋爪博義　34中藤菊雄
以上三九名

校友50名が一堂に

盛会だった尼崎支部総会

五十一年度校友会尼崎支部の総会は、史上空前の異状低温がややおさまった二月二十四日午後五時三十分、尼崎市労働福祉会館中ホールで開会され、校友五十名が出席し、第一部（総会）は中村忠法市議の司会、貴村　雄副会長の開会の辞ではじまった。

川井支部長の経過報告を承認のあと、校友会本部を代表して出席された村上副会長、金本組織部長神屋敷事務局長から、開学以来最高の八万人の出願者をみたマンモス受験風景と本学の使命、校友会および法人の当面する諸問題について諄々たるご挨拶がそれぞれあり、つづいて特に出席された山崎神戸関クラブ理事長、安井伊丹支部長よりご懇懇な祝辞が述べられた。

議事の「支部の運営」については、二、三の問題点が提議されたが、文学部の二学科としては予想外に多くの学生が集まった。入学後の学生について聞いてみると、学生の魅力にひかれて来たものが多かった。東京でのある私大を中退して来たものもあった。数は一、二年とも二十数名であったが、その誰もが将来ジャーナリスト、放送マン、宣伝マン、そして社会科教師を目指していた。気風は何よりも自由奔放であり、書くことでも話すことでも仲々表現力があった。卒業論文に三百枚の長編ジャーナリスト論を書いたものもいった。その様な学生と、毎日議論したり、合宿したり、ゼミ旅行に出かけたり、しばしば簡素だが愉快な会食をしたり、私も四十代で元気一杯だったので楽しかった。

その時から数年後の卒業生達は今や四十代の働き盛り、局次長、部長、デスク級に発展しており、有力業界紙の事務もいる。地域は青森から熊本まで、業種では朝日毎日、読売、サンケイを始め、各地の新聞や出版社、NHKや民放各社、各広告代理店、そして各企業や自治体の広報宣伝部で活躍している。

教師にとっての喜びは、教育した学生が元気で社会的に活動していてくれることである。そして思いがけない機会に会えたり、消息を聞いたりすることである。大学がマス化したこのごろでは、学生との出会いも薄くなったけれど、教師は案外、一々の学生についての記憶をもっているものである。

（社会学部教授）

福島支部総会

六月に開催

福島支部では、二月六日の再建準備会で、再建総会を四月二十四日の日曜日「白鷺」において開催することに内定したのであるが、会場が予約不能のため、六月に変更した。くわしい日程は後日関大紙上に掲載。

吹田支部総会

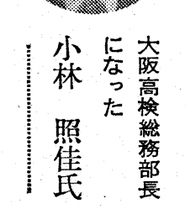
四月九日に開催

校友会吹田支部（檀垣幸雄支部長）では、三月十二日、午後二時から、関西大学会館で総会準備のための役員会を開き、次期総会を四月九日、午後二時から、アサヒビール吹田工場「ビヤホール」を会場に開催することに決まった。

吹田支部では、昭和五十年七月二十九日にアサヒビール吹田工場において、十年ぶりに支部総会を持ち、当時在籍約四千名という支部の全校友に対し、案内状を発送して校友の消息と総会への出席を求めた。その結果約三〇〇通の回答が得られたのであった。

今回の総会は、これらの実績をもとに運営することにして、案内状も回答を得た三〇〇名を対象にし、この人たちを中心に総会出席への呼びかけを行い、一方その他の校友に対しては、機関紙「関大」二面に総会予告の広告を掲載して呼びかけることになった。

なお当日役員会では、組織の基盤を整備するため新たに会則を制定して方針を期すことになり、その原案を審議した。



大阪高検総務部長になった小林照佳氏

人それぞれ

生粋の関大人である。関大人の一言、「私学人生に徹せよ」を処世訓とする。「人生の心がまえとして命つづく限り最善の努力を重ねて歩こと」この人、自分の出身大学が自己に何もしてくれなかったと嘆く人を軽べつする。

大学について、学生であれ校友であれ、その立場において沈たいすることは大学の評価の沈たいにつながると心配する。私学人はスペシャリストでなくてはならぬ。「自分しかない力、各分野の専門家となれ」と淡々と語る。

検事には昭和二十七年四月、この四月で満二十五年間に及ぶ。過般、報道関係でにぎわった滋賀銀行の業務上横領事件では大津地検次席として陣頭指揮にあたった。

学生時代は弁護士を志望、新制大学三年で高文合格、司法修習生時代、それまで犯罪者は社会的弱者であるとの信念がこのころにおいて甘い考えと反省、検事へと志望をかえた。

専門部法科三年生のとき、大阪環状線での通学中のある四月九日、午後二時から、アサヒビール吹田工場「ビヤホール」を会場に開催することに決まった。

吹田支部では、昭和五十年七月二十九日にアサヒビール吹田工場において、十年ぶりに支部総会を持ち、当時在籍約四千名という支部の全校友に対し、案内状を発送して校友の消息と総会への出席を求めた。その結果約三〇〇通の回答が得られたのであった。

今回の総会は、これらの実績をもとに運営することにして、案内状も回答を得た三〇〇名を対象にし、この人たちを中心に総会出席への呼びかけを行い、一方その他の校友に対しては、機関紙「関大」二面に総会予告の広告を掲載して呼びかけることになった。

なお当日役員会では、組織の基盤を整備するため新たに会則を制定して方針を期すことになり、その原案を審議した。

文、工除き昨年下回る

51年度卒の就職状況

昭和一〇年大卒の同期生で組織しているA「桃源会」が、去る二月二十四日夕五時半から、久井理事長を招いて、大阪市大淀区のホテルプラザに集合した。

集まった同期生二十四名。なにしろ昭和二十三年から、二十九年ぶりの再会である。

その昔、サッソウたる千里山ボーイズも、老齢年金を受ける年になり、中には誰だったか判らぬ者もいて、名前を名乗り合って、「やア、君だったか！」と笑い合い、改めて手を固く握り合うという情景もあった。

そして、誰かが、「この年になって、一度集まろうじゃないかということになったのは、お互いにだんだん淋しくなってきたからだろうなあ」という言葉に、「その通りだ！」と、顔を見合わせて爆笑。

中国料理をつつき、酒がほどよくまわって、昔のニックネームが飛び出すころ、「これからは、この二十四人がすべて準備委員になって、この会の輪をもっと大きくひろげていこう」という発言があって、全員拍手で賛成。

なごやかな談笑のうちに、午後八時前散会した。（吉田記）

就職課から発表された一月三十一日付の就職状況によると、一部の就職率（就職決定者数÷就職活動者数×百）は、昨年十二月末日付の六八・七%より九・一%増え七七・八%になった。

就職率と企業規模別就職数

	就職率(%)	巨大企業	大企業	中企業	小企業	官公庁その他
法	83・9(87・2)	28(32)	133(93)	133(146)	70(73)	101(91)
文	67・2(58・3)	27(17)	54(32)	74(38)	62(55)	58(37)
経	86・1(87・4)	26(31)	166(152)	197(232)	80(148)	56(71)
商	83・1(90・0)	29(22)	130(99)	197(168)	108(150)	24(66)
社	71・9(72・3)	16(16)	64(68)	101(129)	81(163)	37(45)
小計	79・7(81・3)	126(118)	547(444)	702(713)	401(589)	276(310)
工	73・9(66・5)	38(39)	98(65)	338(252)	328(299)	81(85)
合計	77・8(76・9)	164(157)	645(509)	1040(965)	729(888)	357(395)

（ ）内は前年度同期

各学部別の就職率と企業規模別就職人数は別表の通りだが、就職率で文学部と工学部を除き、他の四学部で昨年同期を下回っていることと、小企業への就職数が大幅に減り、逆に中企業（工学部で増加）、大企業で増えていることが目立っている。

また産業別就職数は次の通りになっている。

農・林・水産業三（前年度一）鉱業二（同一）、建設業二一〇（同二三三）、新聞・出版・印刷業六五（同六六）、製造業八九五（同八三一）、商業七〇三（同五三〇）、不動産業一七（同一〇）、電気・ガス・水道業四（同三）、サービス業二五七（同二三〇）、公務一五五（同一四九）、自家営業四三（同七二）

就職活動者数は五十一年度三、七七一人、五十年度三、七八七人である。

福田繁芳先輩を偲ぶ

昭和五十二年新春早々先輩の逝去を知らされ、ひとしお寂寥の底につきおとされた思いにおかれました。

数えること昭和二十六年に法人代表の理事長に故白川明吉先輩が就任され、帝塚山で八十九歳の長寿を全うなされる前、この福田先輩は郷土鮮魚商の家事専従をふり捨てて、なにわに出で、少年期に及ぶ。過般、報道関係でにぎわった滋賀銀行の業務上横領事件では大津地検次席として陣頭指揮にあたった。

学生時代は弁護士を志望、新制大学三年で高文合格、司法修習生時代、それまで犯罪者は社会的弱者であるとの信念がこのころにおいて甘い考えと反省、検事へと志望をかえた。

専門部法科三年生のとき、大阪環状線での通学中のある

専門部法科三年生のとき、大阪環状線での通学中のある

内外国特許・商標・出願全般
鈴木国際特許事務所
所長・弁理士　鈴木武夫
大阪市西区西長堀南通一丁目九番地　藤村ビル二階
（四ツ橋交差点南50m東側　地下鉄四ツ橋線四ツ橋駅中央出入口隣）
電話　大阪（06）七四三一～七四三一四　七四三五（所長宅）

関西大学校友会吹田支部総会ご案内

左記により校友会吹田支部総会を開催いたしますので、校友多数お誘い合わせご出席下さいますようご案内申し上げます

昭和52年3月12日

関西大学校友会吹田支部
支部長　植垣　幸雄

記

とき　4月9日（土）午後2時
ところ　吹田市西の庄町　アサヒビール吹田工場　ビヤホール
議案
一、会則制定の件
一、役員改選の件
一、その他
会費　1人当二、〇〇〇円（会費に充当）なお出席の有無はハガキまたは電話にて564吹田市山手町三関西大学校友会事務局（〇六一三八八一一二二内線五七二）まで四月四日必着にてお願いします。本紙上をもって予告いたします。

総合電機設備・自家発電・排煙設備
栄興電機工業株式会社
代表取締役　小坂光則（昭28商卒）
代表取締役　三木憲三（昭28法卒）
本社　尼崎市下食満南台233―17
電話（06）491―5301代表
―関連企業―
コンベアー搬送機・各種工業窯炉
栄興設備工業株式会社
自動制御盤
株式会社エイコーパネル

各種鋳鋼品
橋梁高架用沓並に伸縮継手
日本鋳鋼会々員　日本海事協会認定工場
ノルウェー船級協会認定工場　ビューローベリタス船級協会認定工場
米国船級協会認定工場　ロイド船級認定工場
KSK
吳羽製鋼株式会社
代表取締役　森　正治
大阪市西淀川区竹島町五丁目一番地
電話　大阪（471）四三三一～四番

友信倉庫株式会社
倉庫事業部
重量事業部
空調設備サービス事業部
代表取締役　山野謹五郎
大阪市都島区都島本通1丁目13番10号
電話　大阪928―3551（代）

自然と何かを始めよう。
世界の街を、大自然の中を、快適ライフの輪をひろげながら走りつづけるツバメ自転車。今話題のアルミ製テニスラケットなど、日本ではじめてリムを開発した信頼あるアラヤの技術が、いま自然と健康を愛する多くの人たちに親しまれています。
ツバメ自転車
アラヤ メタルラケット
新家工業株式会社
大阪市西淀川区竹島1―1
TEL 06-474-1313（代表）

過ぎ来し歳月　退任教授の思い出

新聞学科の頃

中井駿二

中井教授

終戦の直後から今まで、随分長い在職期間であったのだけれど、思い返してみれば、あっという間に過ぎ去った様な気もする。この期間は、関西大学にとっても、様々な変転が見られ、大きく躍進した時期であった。私もかかわり合ったいくつかのイベントがあったが、今思い出しても楽しいのは、新聞学科の創設とその後の展開である。

戦争が終わってから暫くの間は日本は連合国軍の占領によってあらゆる部分が管理されていたのであるが、文教政策も直接その指令によって動かされていた。いくつかの大きな改革がなされたが、その中でも現在の学制の基幹になっているのが、六・三・三・四制であり、特に新制大学への転換であった。その転換の機会に、日本の民主化のための重要施策の一環として、大学に新聞学部を設けることが勧奨された。新聞雑誌や、その他のコミュニケーションメディアが、自由に民主的に運営されることが、民主社会の建設に最も有効であり、同時に戦前戦中から封圧されて来た日本のジャーナリズムを解放し、新しく再編成するためにも、新規のジャーナリズム教育が必要であると考えられたからであった。

この勧奨は既存の各大学に寄せられたものであったが、学部にせよ学科にせよ、新しく設けるということは、国立でも私学でもそう簡単なことではなかった。関東と関西とで数校の大学が、その声に応じて構想を練ったが、直ちに新設というわけには行かなかった。幸いにも関西大学では故岩崎卯一学長や、理事会の一部の人とが熱心にかつ慎重に考慮され、新制大学発足と同時に、つまり昭和二十四年四月から新設に踏み切ることになったのである。

もち論、勧奨案のように、新聞学部として完備した設備と要員とをもつものはとても出来なかった。ある理事は輪転機も据えつけ実際に新聞を発行し、学部としてアメリカのそれと同じ様なものを設けることを考えていたが、何といってもまだ戦後間もなくのことでもあり、資材、人員、図書など十分に整備し難いので、まず学科として出発することにした。私は文学部勤務の教授であったが、教歴と新聞歴とをもつ故に岩崎教授から強い要請があり、その衝に当たることになった。私が在籍していた関係で文学部内に新聞学科と

学園を去るに当って

山口吉兵衛

山口教授

して設けられることになった。その間、朝日、毎日、産経、NHKなどから、多くの支援や助言を得て設けられることになった。

学生は新制大学への切り換えの時期であったので、一年次と二年次と同時募集のかたちをとった。何しろ初めての学科なので、どの様な、そしてどれ程の数の志願者が集まるか、期待と危惧とがあった。

その時から数年後の卒業生達は今や四十代の働き盛り、局次長、部長、デスク級に発展しており、有力業界紙の事務もいる。地域は青森から熊本まで、業種では朝日毎日、読売、サンケイを始め、各地の新聞や出版社、NHKや民放各社、各広告代理店、そして各企業や自治体の広報宣伝部で活躍している。

教師にとっての喜びは、教育した学生が元気で社会的に活動していてくれることである。そして思いがけない機会に会えたり、消息を聞いたりすることである。大学がマス化したこのごろでは、学生との出会いも薄くなったけれど、教師は案外、一々の学生についての記憶をもっているものである。

（社会学部教授）

本学の商業部に勤務するようになってから、本年で十八年になる。あっという間であった。喜びも悲しみも苦労も、共にしたこの学園をいよいよ去ることになると思うと、真に感無量である。この間多数の学生諸君に講義し、演習し、何よりも嬉しいことである。

先輩共に課題研究に、かして年々春夏秋冬折りに触れ時にとり、卒業生諸君からもらう便は、この老骨の弛み勝ちな心を引きしめ、励まし、慰さめ、支えてくれた。

忘れることができないのは、大学紛争である。学園は封鎖され、学内での授業はできなかった。しかしゼミの学生諸君は、自分たちで場所を探し、学外で演習をやった。この事件のため、教師としての自信を失いかけようとしていた私に、平素見せなかった勉学の強烈な情熱のあることを見せてくれた。以来私は学生諸君の心底に、この情熱をもっていると確信して、教師を目指していた。卒業生諸君の一学科としては予想外に多くの学生が集まった。

入学後の学生について聞いてみると、学生の魅力にひかれて来たものが多かった。東京でのある私大を中退して来たものもあった。数は一、二年とも二十数名であったが、その誰もが将来ジャーナリスト、放送マン、宣伝マン、そして社会科教師を目指していた。気風は何よりも自由奔放であり、書くことでも話すことでも仲々表現力があった。卒業論文に三百枚の長編ジャーナリスト論を書いたものもいった。その様な学生と、毎日議論したり、合宿したり、ゼミ旅行に出かけたり、しばしば簡素だが愉快な会食をしたり、私も四十代で元気一杯だったので楽しかった。

その時から数年後の卒業生達は今や四十代の働き盛り、局次長、部長、デスク級に発展しており、有力業界紙の事務もいる。地域は青森から熊本まで、業種では朝日毎日、読売、サンケイを始め、各地の新聞や出版社、NHKや民放各社、各広告代理店、そして各企業や自治体の広報宣伝部で活躍している。

先輩の立会、個人演説はさすが法学政治科出身だけに、重ねて弁論部時代の古錆が手伝ってか、他の候補者のそれと異なり聞き惚れる巧説そのものであり、ました。

先輩の事務所開きに何度か招待なしに押しかけて行き、琴弾八幡宮の十王堂での必勝祈願の折、阪神からかけつけた三、四人の同期生を紹介してくれもし、また当選の時は共に喜び、はたまた落選の時には共に反省に泣きしおれる日とてありました。

最後に先輩もとる年齢には勝てなかったように思われます。私の知人であり、学兄であられた白川明吉理事長と福田元衆議院議員お二方の生涯の徳を偲び、併せてご冥福をお祈りいたします。

近郊在住一出身者

をこの理事長に拾われ、人生の何年かを書生として過ごされたことを口ぐせのように話されていました。

共々さぬき観音寺市の生誕者で、大学の大先輩でもあります。敗戦後普通選挙三十年、当落の浮き沈みの衆議院議員職であったようですが「死すまで政治生命は絶えず、息きれるまで議員の出馬はやめしまへん」と国政一筋、新聞も選挙前となると「選挙上手な福田教祖」呼ばわりするやら、投票者を「盲信徒」とも書きたてているのを読むことしばしばでした。

先輩は言葉通りに選挙戦には一回と欠かさず出馬なされ、時には幼と少の子供さんからも「福田のおじさん」と親しまれ、名入りの鉛筆を郵送してはエビのえさを撒き「ネッカチーフ」を郵送しては親達の票のタイを釣るというきわどい選挙戦のエピソードもきかされています。それに中高年の家には年賀、暑中には尊徳さんの写真入り挨拶をかかさず、老年者へは浪曲師をテサ回りさせ、国会報告をなしては選挙民から「福田興行師」と称されることもありました。

先輩の葬儀、告別式は三月二日（水）午後一時～三時、東住吉区田辺四之町五、性応寺で、喪主は二男良延氏。

上田二郎氏（昭33学二法）三月九日午後八時一〇分肝硬変にて逝去。告別式は三月十一日午後一時から大阪市都島区都島本通四―一―八の自宅でとり行われた。

久保　尚行氏（大15大商）二月十九日神戸市東灘区御影町郡家字大蔵一五〇の自宅で高血圧で逝去された。七十四歳

葬儀は二月二十一日日本基督教御影教会で執り行われた。喪主は夫人竹枝さん。

本田武蔵氏（大6専法・弁護士）二月九日逝去された。八十四歳。葬儀は同月十一日午後二時豊中市玉井町二九―三〇の自宅でとり行われた。喪主英子さん。

安東慶友氏（昭36学二経、㈱大市昆布本館総役営業部長）二月二十七日早前四時十二分脳出血で逝去。四十歳。三月一日午後一時三〇分より自宅において葬儀、告別式がとり行われた。在学中拳法部選手監督、学友会執行委員長を歴任。校友会東京支部幹事。千成会関東支部幹事。

松本茂三郎氏（大3専大法、弁護士）三月一日老衰のため東住吉区田辺本町八ノ二五の自宅で逝去された。八十七歳。

告別式は三月二日午後一時～三時、東住吉区田辺四之町五、性応寺で、喪主は二男良延氏。

上田二郎氏（昭33学二法）三月九日午後八時一〇分肝硬変にて逝去。告別式は三月十一日午後一時から大阪市都島区都島本通四―一―八の自宅でとり行われた。

久保　尚行氏（大15大商）二月十九日神戸市東灘区御影町郡家字大蔵一五〇の自宅で高血圧で逝去された。七十四歳

葬儀は二月二十一日日本基督教御影教会で執り行われた。喪主は夫人竹枝さん。

お時間拝借 校友あれこれ対談 〈61〉

朝陽学院・理事 後藤 正身氏

聞き手 吉田 三七雄

人との出会いを大切に
その半生は、まさにドラマ

後藤 正身氏

吉田 いつも、すごくお元気でなすねえ。

後藤 お蔭で、といいたいんだが、このごろ糖尿性白内障というやつで、眼がボンヤリしていけません。今年になって初めて眼鏡を買わされて……。しかし、眼だけで、その他はすべて元気です。

吉田 その他はすべて元気とは、どんな意味か分りませんが、(笑い) うらやましいことですな。

後藤 僕は今まで秘密にしていたが、同学年の学友達より、年齢が八つほど上なんです。

吉田 それじゃ本当のお年は？

後藤 明治三十六年生まれです。

吉田 すると、満七十四ですか。今ね、なにか、秘密にしていたといわれたでしょ。今日はあなたに、学校行政のあり方について、いろいろお尋ねしようと思っていたんだが、それはまた別の機会にということで、その秘密を白状して下さい。どうせもう時効にかかっていることだろうし。

後藤 犯罪行為があったみたいなことをいっちゃ困るなあ。(笑い) 別に、とりたてていうようなもんじゃないんだ。

吉田 それじゃ、なおさらのこと白状せんと、かえって妙なことになりますよ。

後藤 妙なことに思われちゃ僕が困る。なんや、完全に君の誘導尋問にひっかかったみたいだ。(笑い) 僕は兵庫県で生まれたんだが、二歳の時に和歌山県に移り、新宮の中学校へ入ったんです。その頃から貧乏が始まって、中学三年の時に父が亡くなってからは、もうどうにもならないところまで追いつめられました。僕が家におらなかったら、せめて食べる物だけでも助かるだろうと、柔道と漢文を教えていた先生の家に転がりこみ、猟の好きな先生のあとについて、野や山を走り回わりかし、先生の留守中に、進級祝いをやろうといい出したのは僕だから、僕が悪かったんだ。こっそり家へ帰えり、障子の穴から中を覗くと、母はよく眠っていた。その母に、「お母さん、許してくれ」と、小さな声で別れを告げたんだが、これが、これまでに一番辛いことだった。

吉田 その気持、よく分るなあ。

後藤 大阪へ出たものの、中学を満足に卒業していない者に、職を選ぶにひっかかったみたいだ。

吉田 いつも、すごくお元気でなすねえ。

後藤 お蔭で、といいたいんだが、このごろ糖尿性白内障というやつで、眼がボンヤリしていけません。今年になって初めて眼鏡を買わされて……。しかし、眼だけで、その他はすべて元気です。

吉田 その他はすべて元気とは、どんな意味か分りませんが、(笑い) うらやましいことですな。

後藤 僕は今まで秘密にしていたが、同学年の学友達より、年齢が八つほど上なんです。

吉田 それじゃ本当のお年は？

後藤 明治三十六年生まれです。

吉田 すると、満七十四ですか。今ね、なにか、秘密にしていたといわれたでしょ。今日はあなたに、学校行政のあり方について、いろいろお尋ねしようと思っていたんだが、それはまた別の機会にということで、その秘密を白状して下さい。どうせもう時効にかかっていることだろうし。

後藤 犯罪行為があったみたいなことをいっちゃ困るなあ。(笑い) 別に、とりたてていうようなもんじゃないんだ。

吉田 それじゃ、なおさらのこと白状せんと、かえって妙なことになりますよ。

後藤 妙なことに思われちゃ僕が困る。なんや、完全に君の誘導尋問にひっかかったみたいだ。(笑い) 僕は兵庫県で生まれたんだが、二歳の時に和歌山県に移り、新宮の中学校へ入ったんです。その頃から貧乏が始まって、中学三年の時に父が亡くなってからは、もうどうにもならないところまで追いつめられました。僕が家におらなかったら、せめて食べる物だけでも助かるだろうと、柔道と漢文を教えていた先生の家に転がりこみ、猟の好きな先生のあとについて、野や山を走り回わりかし、先生の留守中に、進級祝いをやろうといい出したのは僕だから、僕が悪かったんだ。こっそり家へ帰えり、障子の穴から中を覗くと、母はよく眠っていた。その母に、「お母さん、許してくれ」と、小さな声で別れを告げたんだが、これが、これまでに一番辛いことだった。

吉田 その気持、よく分るなあ。

後藤 大阪へ出たものの、中学を満足に卒業していない者に、職を選ぶにひっかかったみたいだ。

吉田 ポインターやセッターみたいな、猟犬の役だな。(笑い)

後藤 その通り。その次は、おとこ。

ロンドン―パリの11カ月

新二都物語

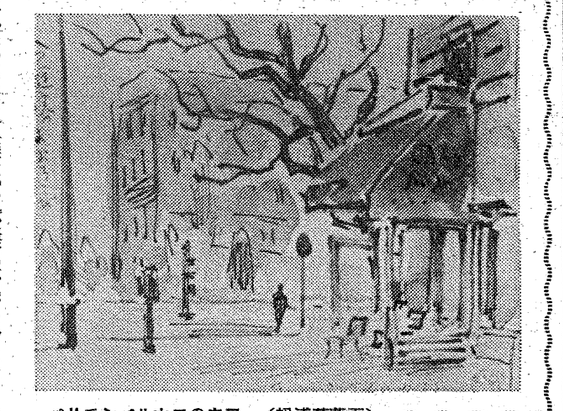
田中　充

関西大学の51年度在外研究員としてフランス、イギリス、アメリカの各大学で研究をされている田中　充氏（経済学部教授・昭36院博経）から経済学部津川教授への手紙

経済学部の津川教授からーロンドンとパリの印象「新二都物語」を書いたらーとのご依頼を受けたのが三月七日。四日後にはもはやパリを離れるわけ。日航へ再確認に行かねばならないので、最新のパリ情報をこの目で確かめるべく、メトロを日航パリ支店最寄りの駅よりも二駅ほど手前で降りてブラブラ歩きする。

三月の声を聞くとパリは全くも春。このシャンゼリゼ大通りは往き交う人々でごったがえしている。人道一杯に出っぱったレストランのテラスには、カワイコちゃんも妖艶なマダムも、ビールをちびりちびり飲んでいる。ついこの間まで赤ワイン色のマントを着て、白のスカーフで全髪を包み込んでいた青い瞳の交通警官のマドモアゼルも、もはやミニスカート風の春の装い。この清楚な制服姿が何よりもファッションの本場パリのプランタンを一層印象づけてくれる。

パリ生活二カ月を振り返って見ると、月並みな言葉だがしらいろの思い出が走馬燈のように脳裏をかけめぐる。



パリモンパルナスのカフェ（松浦莫草画）

パリと対照的　静のロンドン

後髪をひかれる思いで九カ月滞在したロンドンからパリ入りしたのが、一月十一日の早朝だった。昨年の夏、下検分を兼ねて一度パリ入りはしているものの、やはりじっくり落ちついてこの地に足を踏みとどめてみると、その偉大さスケールの大きさに感嘆させられる。さすが大陸国である。そしてちょっと見だけではあるが、英国経済の不況、それにもまして元来が物静かな国民性ということを反映してか、ロンドンが静態的であったのに比べて、パリは全くダイナミック。街並みもいたる所で都市再開発計画の積極さを伴って、建築工事の槌音の響きも高い。ロンドンの建設状況、ことに民間住宅、老朽家屋等の再建築再開発途上でインフレや資本不足にあい、中途半端なままで放置されているのが多かったのを思い合わせると、全く対照的である。

もっとも今の英国は、スコットランドの北海油田開発に全力を注いでいるという事情がある。しかしそれも〝イギリス人〟に言わせれば、「余りにも浪費的だ」と顔をしかめたものだった。一方〝スコットランド人〟は、「英国経済の回復はわが地より」という自負心にあふれていたものだった。それを裏づけるかのように、スコットランド独立化がここ二、三年にも起こりそうというニュースがテレビや新聞紙上をにぎわせ出している。

この北海油田、来年あたりからものになりそうなので、その暁にはオイル事情も好転し、かつての大英帝国の活況がよみがえるだろうと期待されている。

英国は油田に、そしてフランスは農業国の面影をも立派に残し、農産物は自給自足、その輸出も大きい。両国とも工業先進国（第二次産業）というものの、やはり第一次産業におうところ多しというべきだろう。しかしながら、また両国とも観光客が落として行く金が国の収入源の重要な位置を占めて来ているのも、今さら強調するまでもない（第三次産業）。

ことにイギリスは政策的にもポンドを切り下げ、世界各国から客を集め、商品を安く売りさばいている。その稼ぎが多かったため、英国経済回復のきざしが著しいと「フィナンシャルタイム」が報じたのもついこの間だった。そういえば、オックスフォードストリートのセルフリッジ百貨店のバーゲンセール期間の、何と長かったこと。夏もそうだったが、クリスマスと正月明けには全く大安売りになり、フランス人がピエールカルダンなどのスカーフ、シャツ、ネクタイをこそっと買い占めているのに幾度となく出会った。その一人に「フランス製品を何故ロンドンまで来て買うのですか」とたずねてみると「パリで売るのだ」と答えられてびっくりしたものだった。私が買ったカルダンの絹のネクタイ、セルフリッジでクリスマス直前には三千円していたのが、正月明けには千五百円と半額になっていたので飛びついたもの。もう一本欲しくなって明くる日行ってみてもうなかった。きっとフランス人が買ってしまったのだろう。このネクタイ、パリのリボリ街のショーウインドーで見ると何と四千八百円。「もうけた！」と思わず大阪弁が口をついて出たものだった。

お金も恥も落としていく観光客

ところで、観光客の一部の中には、お金も落としてくれるが「旅の恥はかき捨て」とマナー等も悪く、その国の品位さえ落として行く者さえあるように見受けられた。国際化された、世界の大都市共通の悩みではなかろうか。コスモポリタニズムとか価値観の変貌と言ってしまえばそれまでだが、やはり伝統あるその都市や街の情緒が失われて行くのは寂しい思いがする。

きちんと一列に並んで二階バスを待っている山高帽にステッキの紳士を追い越し、割り込んでさっさと飛び乗ってしまう観光客達に、ロンドンでは毎回出会っている。英国紳士は、全く大らかに自国を開放して、お前も来い、皆来いといって世界中の人々を招き、ある段階までは彼らのレッセフェール・レッセパッセ（するにまかせ、行くにまかせ）をじっと冷やかに横目で黙って見ているが、その実、自分の真の席、領分だけはきちんとリザーブして、他人には絶対侵させないようである。赤バスの順番ぐらい、じっとがまんの子なのだろう。

じっとがまんの子といえば、ロンドンは街中、じっとがまんの子のように思えた。パブは夜十一時まであいているが、街中さっさと扉をとじ、電気を消し、すべてが節約である。ロンドンの眠りは全く長い。それに比べて、全くパリはいつ眠るのだろうか。ノートルダム寺院やエッフェル塔をはじめ、由緒ある名所はいずれも夜間照明で浮き上らせている。盛り場や大通りは酔客でごったがしている。ユトリロがブラブラ歩きしただろうモンパルナスの丘の下町あたりは、全く庶民のにおいがしみ込んでいる。ついでに、建物の壁や塀などには日本の鳥居ならぬ十字架でも書くべきだと思う風景さえみられる。

津川教授が通われたシャンソニエ、カヴ・オーデ・スプリエット（この店にはギロチンと貞操帯のコレクションがある）も、夜九時から夜半二時まで超満員。十四世紀時代の地下牢を利用した歴史的な酒場。庶民といわず紳士淑女も出入りする調和のよくとれた憩の場である。

ここでも、「パリのアメリカ人」ならぬ「パリの日本人」にもよく出会う。すみっこの壁きわの席につつましく、それでいて全身でインテリぶりを発揮しながら、ちびちびとビールを飲んでいる日本人。ちょっと見ると、ちょっとかっこいい。ちょっとかっこいいのが、ちょっとかっこわるい。ちょっとかっこわるいのが、ちょっとかっこいい。ちょっとかっこいいのが、ちょっとかっこいい。ちょっとかっこいいのが、ちょっとかっこいい。ちょっとかっこい